



六中だより

～自主・勤勉・共生～

11月号 No.7
令和6年11月発行
港区立六本木中学校
校長 松島 智子

最高のハーモニーでした

校長 松島 智子

11月に入り、今年も残すところ、あと2か月となりました。ついこの間まで、蒸し暑いと感じる日があったと思ったら、このところは朝夕の冷え込みを感じるようになりました。風邪をひいている人も多く見受けられます。期末考査を控えていますので、暑さ寒さに上手に対応しながら体調管理をしていきましょう。

さて10月19日に行われた合唱発表会ですが、今年も大いに盛り上がりました。全学年オール3クラスになって初めての合唱発表会でしたので、さらにパワーアップし聴きごたえもありました。それぞれの学年が合唱曲4曲を披露しましたが、どの曲もその完成度の高さには驚かされるばかりでした。1曲でさえ難しいのにしかも4曲。しかし、歌っている皆さんからはその大変さは伝わってきません。むしろ、楽しんで歌っている様子が伝わってきます。4曲を歌い終わってもまだまだ歌えそうな余裕すら感じられました。

六中の生徒は、移動教室や夏季学園や部活動の応援の際に歌を歌うことで、みんなの気持ちを一つに合わせ楽しむ場面を何度も目にしてきました。六中の生徒にとって歌うことは、決して恥ずかしいことではなく、むしろ自分たちの気持ちを高揚させるとともにそれぞれの気持ちが合わさり、その一体感を味わい結束したことを実感できる一つのツールになっているのだと思います。

合唱の練習は1学期の音楽の授業から始まっていました。夏休みにはパートごとに音源が配信され個人で練習することができるようになっていました。2学期に入るとパートごとに本格的な練習が始まり、やがて互いのパートの音が重なり合って一つの曲が創られていきます。どの学年にもパートリーダーがおり、音楽の教員から受けたアドバイスをそれぞれのパート練習の際に生徒に伝える重要な役割を担っています。1年生からその役割を任されていますので、3年生ともなると指示も的確で良いものを創り上げようとする気持ちが前面に出て学年を引っ張ってくれていました。また、指揮者、伴走者も忙しい中、日々練習を重ねて、みんなが気持ちよく歌えるようにと一生懸命に努力する姿が見られました。このように全員の努力によって、一つの行事が創られ盛り上がっていくことによって、人々に感動を与えることのできる行事が完成されていきます。

今年もたくさんの保護者や来賓の方にお越しいただき、ありがとうございました。観客の数が多ければ多いほど生徒のやる気も高まります。午前中の緊張感のある歌声と午後の伸び伸びと元気のある歌声とは全然違います。参観していただいた方からは「素晴らしかった。やはり六中の合唱はいいですね。」と皆さん口をそろえておっしゃっていただきました。皆さんに誇れるこのよい伝統をこれからもぜひ受け継いでいってほしいものです。



さて『文化、芸術の秋』にふさわしく、六中生は行事以外でも頑張っその力を発揮してくれています。表彰の結果は以下の通りです。受賞者の皆さん。おめでとうございます。

○中学生の「税についての作文」受賞者	
・（優秀作品として上位の賞に推薦中）	3-1 T.M
・港区長賞	3-3 H.Y
・港区教育委員会賞	3-3 J.S
・公益社団法人 麻布法人会長賞	3-2 O.R
・麻布納税貯蓄組合連合会 優秀賞	3-3 S.Y
○ 薬物乱用防止ポスター・標語コンクール	
【標語の部】 優良賞	1-2 Y.K
『一度だけ 自分を失う第一歩 絶対にダメ 薬物乱用』	
○ 第6回港区図書館を使った調べる学習コンクール	
図書館長賞	2-2 H.H 『アートは必要か～港区のアートを見つめて～』

さて、11月16日（土）には、麻布地区総合防災訓練がこの六本木中学校を会場にして行われます。毎年、たくさんの地域の方が集まり、地震の疑似体験や消火訓練、防災に関する知識やいざというときに役立つグッズの紹介なども行います。ぜひ六中の生徒にも参加してもらい、地域の方と一緒に防災に対する意識を深めてほしいと思います。今年1月には能登半島地震で多くの方が被災されたうえに、9月には奥能登豪雨の被害を受け復興がさらに延びる事態になっています。被災された方々のお気持ちを考えると本当に心が痛みます。災害は、人命や家や物など大切にしてきたものを無くすだけでなく、人の心にも深く爪痕を残します。残された人はそれでも生きていかなければなりません。その方たちの心の支えとなるのが、地域の仲間やボランティアで応援してくれる人たちの力であり、被災者の話し相手になったり、行動を共にしたりなどのケアも必要になります。今ここで何か災害が起これば、たくさんの方がこの六中に避難してくると思われます。その時に中学生ができること、例えばあなた達の歌で、不安な人の気持ちを励ましてあげることだってできるかもしれません。自分たちに何ができるのかを考えながら、今年の防災訓練にぜひとも参加してみてください。

